

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 NGUYEN Thi Hong Ngoc (グエン ティ ホン ゴック)

論 文 題 目 Livelihood structure changes in the northwestern
mountainous region of Vietnam

(ヴェトナム北西山岳地域における生業構造変化)

論文審査担当者

主 査 名古屋大学大学院環境学研究科 教授 横山 智

副 査 名古屋大学大学院環境学研究科 教授 岡本 耕平

副 査 岡山大学環境生命科学研究科 教授 金 科哲

論文審査の結果の要旨

ベトナム農山村地域では、1986年のドイモイ、1993年の土地法の制定による森林・土地の分配、1995年のWTO加盟などに後押しされ、商品作物の導入が急速に進んだ。本論文の研究対象地域とした北西山岳地域では、1990年代に自給的な焼畑からハイブリッド・トウモロコシへと土地利用が変化し、現在は多様な商品作物が栽培されている。そして、農民の生業構造も多角化しているが、その変化要因に関しては、ほとんど議論されていない。そこで本論文は、1990年代前半から現在にいたるまでのベトナム北西山岳地帯であるソンラー省イエンチャウ県における生業構造の変遷プロセスを検討することを目的とした。

本論文は、5章で構成されている。第1章は、農山村地域の生業に関する従来研究を途上国およびベトナム地域研究の文脈を踏まえて、その研究動向を整理した。第2章では、研究対象地域の位置づけをベトナム他地域との比較を通して明確にし、さらに土地制度、民族などの基本情報を提示した。続く第3章では、かつてもっとも重要な生業であったトウモロコシ生産について分析した。ハイブリッド・トウモロコシの生産においては、種子が一代限りしか使えないため、数多く販売されている種子から、どれを選択するか、農家にとって重要な問題である。研究対象地域のトウモロコシ取引の構造は、種子と農業資材を提供する多国籍企業、さまざまなレベルの仲買業者、銀行、農民のネットワークで成り立ち、農民の種子選択においては、農民と仲買業者の社会的関係が大きく影響していることを明らかにした。第4章では、トウモロコシ生産に代わる新しい生業の導入過程を3村252農家世帯の土地利用変化（2010～17年）から捉えた。トウモロコシ面積が減少し、マンゴーとサトウキビ栽培が増加し、さらに、これまでは見られなかった県外への出稼ぎが活発に行われている村も登場した。マンゴー、サトウキビ、出稼ぎは、村ごとに異なる耕地種別、耕地面積、インフラ整備状況などに規定され、それが新しく導入される生業種類の差となっていることを明らかにした。そして第5章では、第3章と第4章の結果をもとに、ベトナム山岳地域の生業構造変化の特徴を内的要因と外的要因というポリティカル・エコロジー的視点から結論付けた。

ベトナム農山村地域における土地利用変化に関しては、これまで多くの研究蓄積がなされている。しかし、ベトナムで主要なキン族ではなく、黒タイ族とモン族が生活している北西山岳地域において、土地利用変化のドライビング・フォースを探るために、少数民族の生業変化にフォーカスをあて、その変化要因を解明した研究は不十分である。本論文は、個人・世帯レベルの土地利用と生業の変化に関する実証研究を通じて、地理学、農学、ならびに林学などの複数の関連分野に大きな学術的貢献を果たしたといえる。また、本論文の成果は土地・環境政策研究の分野にとっても貴重な成果をもたらし、今後の研究の展開にも期待が持てる。よって、本論文の提出者、グエン ティ ホン ゴック氏は、博士（環境学）の学位を授与するにふさわしいと判断した。